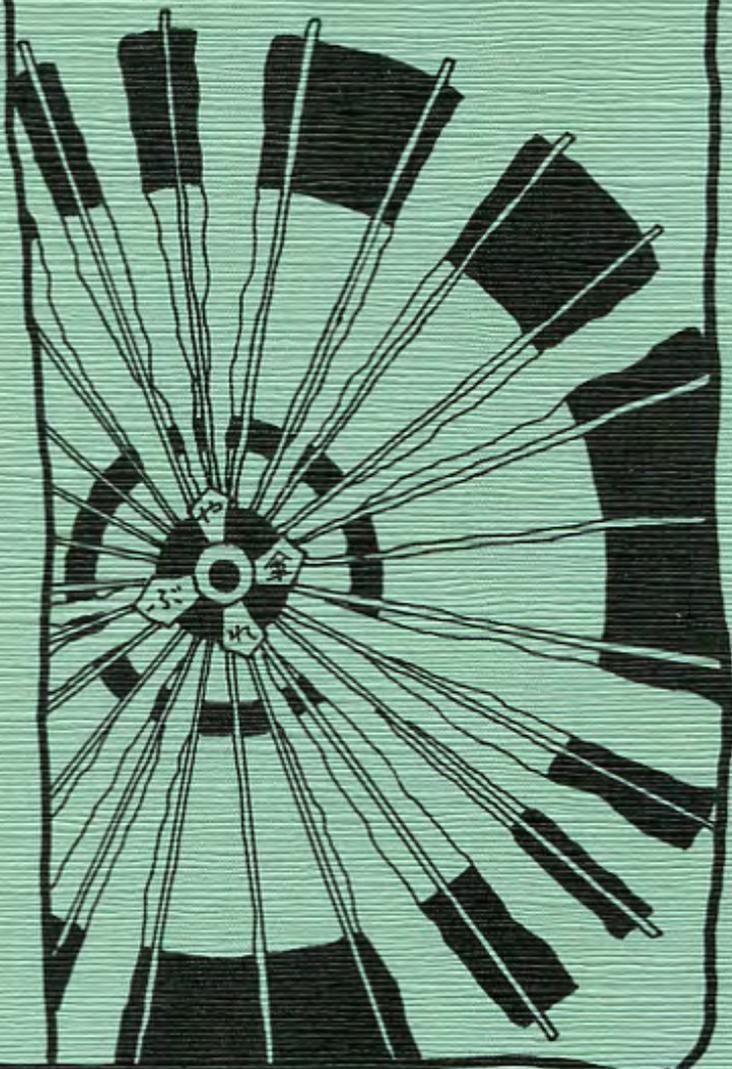


やぶれ傘



七十号

二〇二三年二月

硝子戸のよく磨かれて初雀 根橋宏次

竹藪は十坪ほどにて冬の日に 大島英昭

川土手に死因不明の狸の子 小川 滋

電球のあかりの届く海鼠の背 きくちきみえ

走り根は石畳まで酉の市 瀬島洒望

蠟梅や猛犬の札門柱に 廣瀬雅男

日は富士の裏へ移れり雪のあと 藤井美晴

ふところに木魚の響山眠る 秋葉貞子

赤き実の枯鬼灯の網目より 丑久保 勲

落柿舎の冬日のなかに座して詠む 安藤久美子

薄き日の温みほのかに吊し柿 久世孝雄

ざくざくと霜柱踏み歩きけり 國保八江

雪原となりて磧の暮るる頃 渡邊孝彦

冬雲の大きく動き草に影 白石正躬

数へ日の寺に「開運」幟立つ 有賀昌子

抄 集 句 傘 れ ぶ や 大 崎 紀 夫 選

夜目凝らし白鳥数ふドナウ川 松村光典

賀状書き半ばのコーヒータムかな 橋本美代

富士見えて畑一面の霜柱 山本千夏

プランターに育つ七草摘みにけり 秋元久子

山茶花に触れて不在の門を辞す 秋山英子

指先で窓拭く朝や初氷 秋山信行

寒肥のにはひ嗅ぐでもなく嗅いで 天野美登里

冴ゆる富士富士見通りのその先に 伊藤更正

栗の毬踏んで林を抜けにけり 大野芳久

木洩れ日のメガネに触れし小春かな 菊地葉子

神主の束と抱へし破魔矢かな 黒木東吾

七厘に煤けし薬缶飾売り 齋藤朋子

重ねたる鞆の上にコート置く 高橋 均

声だして本読む母子年暮るる 高柳正幸

ガラス張りの喫煙室や冬日さす 武田紀久

葱
畑

大崎紀夫

このわたや夜雨は窓を打ちつづけ
日は白し雁木の下にバスを待ち
大楯の下の楯木の崩れけり
だらだらと日向をくだり冬桜
土手道を下り日暮れの葱畑

もぐら塚踏めばさくりと霜柱

石屋より石刻む音雪催

くらがりの木へむささびの飛びにけり

あらたまの日は釣り舟の胴の間に

冬萌えの野の足跡の岸にまで

しばらくは枯野の駅に停まりゐる

土手にのぼれば野を焼いてゐるにほひ

初雀

根橋宏次

まえ注ぎ足して名ばかりの鱧酒に
風花や藤沢周平文庫本
山眠る尻にポケット壺の酒
切山椒水脈消えぬ間に次の船
硝子戸のよく磨かれて初雀
襟巻を肩へ撥ね上げコップ酒
煙出しのあたり明るむ淑気かな
対岸をわが影歩く冬董
中州よりひとかたまりの冬雀
融けかかりあたりしがまた氷りある

枯 菊

大島英昭

紅葉散る駝鳥の濫のあるあたり
みな底に冬の水湧き藻を揺らし
短日の大学芋のひかりかな
枯蓮かれこれ二時になりにけり
冬の日や鶏舎に雄と雌の矮鶏
枯菊の刈らるることもなきままに
菜畑に元日の日のあたりけり
をさな児の鯉を見てゐる四日かな
竹藪は十坪ほどにて冬の日
寒芹のもじやもじや水にあをきかな

源五郎鮒

小川滋

涸沼に巢穴思はず窪深く
平つたい眺めの中の枯柳
川土手に死因不明の狸の子
寒月やノブ磨かれて酒場の戸
冬の蠅陽の腰板を動かざる
十二月軍手軍足吊す店
小寒や塀に落書新しく
冬温き象舎に象の水飲み場
玉子酒益子の碗に吹きながら
煮凝の中に眠れる源五郎鮒

海 鼠

きくちきみえ

炬燵より靴下ひとつ現るる
冬の鴉鳴き食パンの焼きあがる
マスクして飴玉なめてゐるやうな
おほかたは薄氷となる水たまり
雪あとの闇の定まり来たるかな
ごみ置き場はさんで雪を捨てにけり
寒鴉空をひらたく飛びゆけり
蕪汁ひと混ぜしたる椀の中
寒釣りの日向に餌を換へてをり
電球のあかりの届く海鼠の背

酉の市

瀬島洒望

門番も菊人形でありにけり
シンガールのミシンを今も柿の秋
瓢箪の種を出しぬる夜長かな
走り根は石畳まで酉の市
搬出の絵を載せてをり夕時雨
消息を知れば鬼籍や花八手
焼け跡は片付かぬまま霜の朝
楽器置く楽屋の出口大晦日
佐助や蜻蛉の形の釘隠
襟巻きをして来たりけり通夜の僧

門柱

廣瀬雅男

落葉降る中を影踏み遊びかな
乳母車冬日の影をひきながら
水鳥に影の生まれる夕日かな
一回に三種六錠風邪薬
窓越しに赤城風を聞きにけり
朝の日の部屋突き抜ける冬至かな
魚跳ねて川面に揺らぐ初明り
金婚の妻と二人や小豆粥
道なりに麦の芽の畝曲りけり
蠟梅や猛犬の札門柱に

雪のあと

藤井美晴

日は富士の裏へ移れり雪のあと
木の橋の影の落ちたる冬の川
冬月に夜間飛行の灯近づく
枯山の方より電車来て止まる
巖頭に鶺鴒や雪雲の動かざる
冬の田を超え行くハンングライダー
畑中の墓所に冬日の豊かなる
久女忌の雪は斜めに降りにけり
鬼は外わが口に豆放り込み
磴のぼりくる海風と棕落葉

雪のあと

藤井美晴

日は富士の裏へ移れり雪のあと
木の橋の影の落ちたる冬の川
冬月に夜間飛行の灯近づく
枯山の方より電車来て止まる
巖頭に鵜や雪雲の動かざる
冬の田を超え行くハンングライダー
畑中の墓所に冬日の豊かなる
久女忌の雪は斜めに降りにけり
鬼は外わが口に豆放り込み
磴のぼりくる海風と棕落葉

とろろ汁

秋葉貞子

大まかに播りて我が家のとろろ汁
ははの座の温みのままに毛糸あむ
小春日や坐りてうれし膝小僧
車椅子押され魚買ふ小春かな
ふところろに木魚の響山眠る
羅漢さん膝に落葉の吹きだまり
虎落笛マリオネットの翳ふるへ
冬蝶や厚き手紙の封を切り
啼きつづく鳥の名知らず冬の朝
着ぶくれて世塵の風にかかはらず

◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
3月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	6日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	27日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	29日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
4月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	横浜・三溪園	丑久保 勲
	24日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	27日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

3月29日(第5金曜)は1月のNHK教室の振り替え。

4月21日(日)の吟行。集合は10時。JR根岸駅(横浜)改札口。

吟行地は三溪園。句会場は神奈川近代文学館。和室。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎048-862-2757 藤井美晴 ☎0422-55-2733
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 浦和コミセン ☎048-887-6565
 丑久保 勲 ☎048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ